10/13/2010

UNIVERSAL DISPLAYは、低コストOLED製造の実現につながる溶液処理可能なリン光性OLED素材システムの飛躍的な前進を発表します。

ニュージャージー州ユーイング--(BUSINESS WIRE)--Universal Display Corporation (NASDAQ: PANL)は、UniversalPHOLED® 技術と材料を用いたエネルギー効率の高いディスプレイと照明を実現していますが、本日、溶液ベースの製造工程で使用するUniversalP2OLED™ 湿式プロセスが可能なリン光性OLED素材システム性能の画期的進展を発表しました。大面積OLEDディスプレイと照明デバイスの高効率コスト製造の新たな方向性として、ディスプレイおよび照明製造業者は溶液ベース製造技術を評価しています。これらの開発結果は、2010年10月11日から15日まで韓国京畿道イルサンにあるKINTEXを会場として開催された第10回情報ディスプレイ国際会議(IMID 2010)で、発表されました。

「Universal Displayチームによる溶解処理リン光性OLED素材システムの最近の開発結果は、ここ数年の中でも大きな前進でありました。」

Tweet this
今日配信した紙面によると、Universal Displayの上級研究員であるDr. クァン・オク・チェンは、Universal Displayの湿式プロセスが可能なP2OLED技術と材料の性能は、特許技術でもある湿式プロセス用低分子発光システムを使用した強化素材およびデバイスの継続的開発に大きく貢献したと答えています。これらシステムは現在、真空蒸着法を用いたPHOLEDの性能に近づいています。

この発表の中で、Dr. チェンは、新しい緑色システムについて言及し、電流輝度効率が66 cd/Aで、輝度1000 nit からの半減寿命は130,000時間であると説明しています。つまり1年前に発表されたUniversal Displayの研究結果よりも約2倍の発光効率と寿命となります。さらに、同社の赤色P2OLEDシステムでは現在15 cd/Aの効率と62,000時間、薄青色P2OLEDにおいては18 cd/Aおよび5,000時間が可能となっています。これらの結果は、バーンインや予備エージング処理なしで、得られたものです。

インク作成最適化の開発において、インクジェット印刷のP2OLEDデバイスを、スピンコーティング法を用いたデバイス性能と比較する形で実証しています。一般的にスピンコーティング法は研究目的のみの使用であるのに対して、インクジェット印刷は、大面積の製造に使用でき、湿式プロセスの使用用途として代表的なものです。

「Universal Displayチームによる溶解処理リン光性OLED素材システムの最近の開発結果は、ここ数年の中でも大きな前進でありました。」Universal Displayの最高経営責任者兼社長スティーブン・V・アブラムソンは語っています。「Universal Displayの高効率PHOLED 技術と材料は、真空ベース製造工程を行うOLEDディスプレイと照明メーカーにとって、すでに無くてはならないものです。」これらP2OLEDの研究結果により、コスト効率の良い湿式プロセスを用いた量産手法により高効率OLEDディスプレイと照明デバイスを大面積で生産できる製造プラットホームの実現に近づく大きな一歩となったのではないでしょうか。」

ディスプレイと照明産業の様相を一変させているUniversal Displayの活動については、www.universaldisplay.comをご覧ください。

Universal Display Corporation概要

Universal Display Corporation（Nasdaq：PANL）は、ディスプレイおよびライティング業界向けに高度な有機発光デバイス（OLED）テクノロジーやマテリアル、サービスを開発および提供するリーダー企業です。当社は 1994 年に創設され、現在では申請中のものも含めて世界中で 1,000 件以上の特許における独占、限定的独占または単独ライセンスを保有しています。Universal Displayは、エネルギー効率の高い画期的な UniversalPHOLED™ リン光有機 EL テクノロジーなどにおける独占技術のライセンスを持ち、低電力で環境に優しいディスプレイおよび白色光の開発に寄与しています。当社はまた、有機 EL のパ

フォーマンスの最大化を可能にする重要な要素として注目される、高品質かつ画期的な UniversalPHOLED マテリアルの開発および提供も行っています。さらにユニバーサルディスプレイは、技術移転や技術開発におけるコラボレーション、オンサイトトレーニングなどにより、優れたカスタムソリューションをお客さまやパートナーにお届けします。

米国ニュージャージー州ユーイングに本拠を置くUniversal Display社は、プリンストン大学、南カルフォルニア大学、ミシガン大学、PPG インダストリーズなどの世界クラスの機関とパートナーシップのネットワークを構築しています。その他にも、AU オプトロニクス、奇晶光電株式有限会社、デュポンディスプレイズ、コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社、LG ディスプレイ、サムスンモバイルディスプレイ、セイコーエプソン株式会社、ソニー株式会社、昭和電工株式会社、そして東北パイオニア株式会社とも関係を築いています。ユニバーサルディスプレイの詳細については、www.universaldisplay.com をご覧ください。

Universal Display Corporation および Universal Displayのロゴは、Universal Display Corporationの商標または登録商標です。他の企業やブランド、製品名は、商標または登録商標である場合があります。

Universal Display Corporationの技術およびそれら技術に関する潜在的アプリケーションなどの史実に基づかない本文書のすべての声明は、1995 年の私募証券訴訟改正法の意義の範囲内での見通し情報です。これらは将来の出来事に関してUniversal Display Corporationの現在の見解を反映したものであり、実際の結果は予期したものとの間に重大な相違が生じる可能性を持つリスクと不確実性を含んでいるため、本書における見通し情報に対して、いかなる過度な信用も置かないようお願い申し上げます。これらのリスクと不確実性については、証券取引委員会に提出した Form 10-K および Form 10-Q のUniversal Display Corporationの決算報告にて、特に、2009 年 12 月 31 日に終了したUniversal Display Corporationの Form 10-K の決算報告における表題「リスク因子」の章で、これまで以上に詳しく説明されています。Universal Display Corporationは、本書に含まれるいかなる見通し情報を更新する何らの義務をも負いません。

CONTACTS

宛先:
ユニバーサルディスプレイコーポレーション
詳細についてのお問い合わせ:
ディーン・レジャー
800-599-4426
または
送り元:
グレゴリー FCA コミュニケーションズ
マスコミ関連のお問い合わせ:
マット・マクローリン
matt@gregoryfca.com
610-228-2123
または
joeh@gregoryfca.com
610-228-2110